



## 今月の話題

- 2015年度 中南米地震工学研修
- 関西研修旅行レポート
- IISEE 来訪者のご紹介
- 満開の桜の下で、歌を歌いランチを楽しむ
- 研修生からの手紙
- 訃報
- 関西研修旅行スナップショット

## 研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

## 2015年度 中南米地震工学研修

国際地震工学センター 横井 俊明、犬飼 瑞郎

国際地震工学センター(IISEE)は、国際協力機構(JICA)と協力し、5月25日から6月25日にかけて、第2回目となる中南米地震工学研修を実施します。この短期研修の講義で使用される言語はスペイン語です。IISEEは、ドミニカ共和国、エルサルバドル、ホンジュラス、メキシコ、ニカラグア、そしてペルーから計16名の研修生を迎え入れることについて、JICAと合意しました。彼らはつくば市に位置するIISEEで6週間学んだ後、サンサルバドルに移ります。そこでは、現地の建築材料と中南米で一般的な建築手法を用いた構造実験に参加することができます。

上述の6ヶ国のみが、JICAによって実施された「Request Survey」でこのコースを選択しました。その結果、「General Information」という名称のJICAの正式な招待が、これらの国に対してのみ送付されることとなりました。次の「Request Survey」は、今夏に実施されます。もし、あなた自身もしくはあなたの後輩の同僚をこの研修に参加させたい場合は、どうかまず自国の政府に相談してください。我々は、常にあなたやあなたの同僚を歓迎します。

## 関西研修旅行レポート

(1) Mr. Kyaw Kyaw LIN (ミャンマー、地震学コース)

2015年4月13日から16日までの関西地方(大阪、京都、神戸)と淡路島への研修旅行は、私の日本滞在中で一番興味深く、思い出深いものとなりました。地震学コースと耐震工学コースは、新技術と復旧過程そして歴史的な寺院の修復技術に関する知識習得のため、人と防災未来センター、兵庫耐震工学研究センター、明石海峡大橋、仁和寺、二条城、上町断層そして野島断層保存館を訪問しました。



淡路島にある野島断層保存館での見学は印象的でした。1995年に発生した兵庫県南部地震で何が起こっていたか理解するのに有益で大変素晴らしい施設でした。私は断層の動きとその地域の被害を学びました。研修旅行前は活断層について教科書、学術誌から学んでい

ましたが、今回の現地見学で実物の断層を観察することができ今までにない非常に良い経験になりました。

## 地震データベース

2011年3月11日東北地方  
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

最後に、この研修旅行で学んだことは私個人だけではなく、自国のミャンマーにとっても大変有益なものになるでしょう。災害軽減と防災のため日本の文化と最新の技術を学ぶことができ、素晴らしい機会に恵まれました。建築研究所国際地震工学センター、JICAに感謝します。

### (2) Ms. Nadia Eda MACAVILCA ROJAS (ペルー、地震学コース)

4月13日から16日の関西地方研修旅行で、地震学コース研修生は、大阪市を貫く上町断層と、淡路市の野島断層を訪問見学しました。上町断層に沿って徒歩見学をした後、人と防災未来センター(神戸市)と野島断層保存館(淡路市)を訪問しました。

阪神・淡路大震災の記録から、防災対策の改善を持続的に促すためにも悲惨な体験の記憶を留めていくことの大切さを学びました。上町断層見学を通して大阪市の地震リスクが高いことを認識し、またそこで予想される被害についても人と防災未来センターの阪神・淡路大震災に関する展示から想像することが出来ました。



三木市にある世界最大の耐震実験施設、E-ディフェンス訪問では、その地震工学研究への投資から日本の防災対策へのコミットメントをうかがい知りました。更に、明石海峡大橋を登るという一生にまたとない経験も得ることが出来ました。

この充実した研修旅行を通して、日本が防災に対する十分な備えと研究への投資により、現在の防災マネジメント及び地震工学におけるリーダーシップをどのように手に入れたかを理解することが出来ました。

### (3) Ms. Mary Criss SUAREZ ANTUNEZ (ペルー、地震工学コース)

私たちは、関西方面に研修旅行に行く機会を得ることが出来ました。1995年の兵庫県南部地震に関連し、日本政府により採られた対策や地域社会間での協調の重要性を学びました。



私たちは、次世代に記憶を残すため設立された施設を訪問しました。明石海峡大橋では、建設方法や、その維持保全のために適用された技術を学び、大阪府庁舎では、免震レトロフィットを段階的に行う工程を見ることが出来ました。

E-ディフェンスでは、建築物の耐震性能を向上させるために使用される三次元実大振動台を見学しました。京都市では、平安時代と江戸時代に建てられた木造寺院の修復について学びました。昔と現在に使われた技術の違いは驚くべきことでした。

1995年の災害以来、神戸を回復性の高い街とするための日本政府の努力は明らかに現れています。日本の技術と文化についてより多く知り、学ぶことの機会を私たちに与えてくださった建研、国地スタッフに感謝致します。



## 論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。

### (4) Ms. Kathrine Anne Malabuyoc CAILING (フィリピン、地震工学コース)

2015年4月13日から16日に渡る関西研修旅行はすばらしい体験でした。

大阪府庁舎の免震レトロフィットによる改修工事の見学は本当に有益で楽しい体験でした。人と防災未来センターや野島断層保存館のように震災の記憶の保存やその知識を次世代への引き継いでいくことは私が日本に感心している点の一つです。

現在6か月以上が経ち、私達は常に世界最大の三次元振動台(Eーディフィエンス)の勉強をしてきましたが、実際に身近にふれることができたのはすばらしい体験でした。世界最長の吊橋、明石海峡大橋の建築技術について学んだことは興味深く、さらにその頂上まで登る機会に恵まれ感激でした。頂上からの眺めは息を飲むほどでした。

仁和寺や二条城の補修工事の見学では日本の歴史に触れました。何百年もの前の建築技術を見て、日本がいか

JICA と建築研究所 IISEE がこの研修の機会を与えてくれたことに深く感謝いたします。この旅行は一生に一度の恩恵でした。私達はとても楽しみ、また学びました。

### (5) Mr. Karl Vincent Colobong SORIANO (フィリピン、津波防災コース)

1854年、広川村に大きな地震が起きた際、浜口梧陵は津波が襲ってくるであろうと気づき、高台へ避難するよう村人に呼びかけました。夜になり村は闇で覆われたので、稲穂に火を付けて避難の道しるべとしたそうです。これが“稲むらの火”として伝わる物語になります。

この1854年の安政南海地震の後、浜口氏は被害を受けた広川村の復興の手助けをしました。私財を使い、村人を雇い、今後再び起こるであろう津波から町を守るための堤防を築いたのです。そしてそれは1946年の南海沖地震の際に役立つこととなったのです。

今日の私たちの社会では、過去の出来事から未来を守るということは時に想像しがたいところがあります。浜口氏の見据えたリーダーシップは全ての指導者が持つべき基本的な資質です。

日本社会は、世代に渡って災害によく備えられていると思います。広川の堤防に始まり、沼津市の水門、吉田町の津波避難タワーを見学しましたが、私は地方自治体が津波災害への予防対策にここまで尽力していることに驚嘆しました。そして日本は過去から学び、未来へ活かしているのだと実感しました。どんなに古く、それが原始的であっても私たちは過去を拒否できませんし、その過去を振り返り、同じ間違いを犯さないという事が将来を見据えるうえで大切であると学ぶことができました。



## IISEE 来訪者のご紹介

国際地震工学センター長 横井 俊明

3月、4月に国際地震工学センターに来訪された方々をご紹介します。

3月10日



(中央3名 左から右)

ユネスコ 災害リスク軽減ユニット 自然科学部門より

Mr. Alexandros K. Margaritis

Mr. Jair Torres

Mr. Soichiro Yasukawa



楽しむのは今です。

3月20日



(左2名 左から右)

チリ国際協力庁(AGCI)より

Mr. Enrique O'Farrill Julien

Ms. Melissa Sanchez

(中央2名 左から右)

在日チリ大使館 職員

JICA チリ支所代表/JICA 本部 職員

## 連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお願い下さい。

iiiseenews@kenken.go.jp  
<http://iisee.kenken.go.jp>

3月18日

Mr. Carlos A. Villacis

Global Earthquake Model (GEM) Foundation にて、Project Manager / Strategy Coordinator をされており、1985-86 地震工学コースの元研修生でもあります。

4月13日



アルメニア国立鑑定局より

(中央)Dr. Artashes Javadyan (局長)

(右)Dr. Patvakan S. Voskanyan (副局長)

(左)在日アルメニア大使館 職員

## 満開の桜の下で、歌を歌いランチを楽しむ

国際地震工学センター 管理室長 山下 崇

4月3日(金)、IISEEでは、花見ランチ会を開催しました。曇のお天気でしたが、満開の桜と和食弁当で大いに盛り上がりました。新しく入ったメンバーとして、管理室から後藤主査と私(管理室長 山下 崇)が自己紹介をし、また、誕生月を迎えた研修生にはみんなで歌を歌ってお祝いしました。

IISEEの建物の周りには桜の木が多く、その桜の木は、4月初旬に満開になります。ちょうどこの頃は日本の年度初めと重なり、新しい息吹を感じる季節に行われる「花見」は日本人にとって伝統的な季節の風物詩です。人々は家族、友人、勤務先の同僚らと桜の花の下で飲んだり食べたりしながら語り合い、楽しく過ごします。

国際地震工学センターの職員も、美しい桜の花の下で研修生と大変よい時間を過ごすことができました。



桜の下で

## 研修生からの手紙✉

3月にYearBook vol.32をお送りしたところ、元研修生からたくさんのお礼のメールをいただきました。そのうち、心温まるコメントや情報をいただいた3名について、お名前のみご紹介させていただきます。

Mr. Afsar Khan (2006-07 地震学コース、パキスタン)

Dr. Himangshu Sekhar MANDAL (2005-06 地震学コース、インド)

Dr. Carydis Panayotis, Gr. (1968-69 個別地震工学コース、ギリシャ)

## 訃報

この度お二人の訃報の情報が寄せられました。

ご冥福をお祈り申し上げます。

Mr. Francisco B. LIMETA (1966-67 地震工学コース、1974-75 個別地震工学コース、1980 セミナーコース、フィリピン)

Dr. Georgios STAVRAKAKIS (1984-85 地震学コース、ギリシャ)

バックナンバーは  
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>



# 関西研修旅行スナップショット



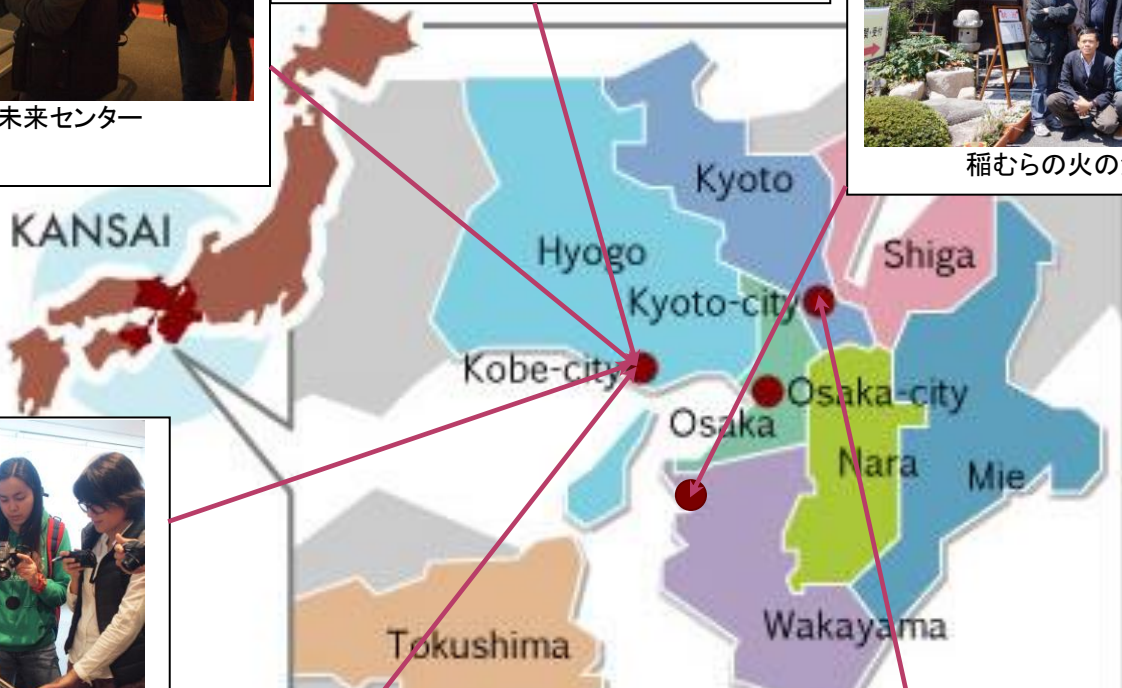
人と防災未来センター



明石海峡大橋の頂上にて



稲むらの火の館の前にて



防災科学技術研究所  
(E-ディフェンス)



野島断層保存館



二条城前にて集合写真